

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医療的ケアⅣ Medical Care Ⅳ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
2年次前期までの必修科目の修得				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
新井文子／和田晴美		福祉棟2階	初回授業にて説明する。	授業中に指示します
授業の概要				
医療的ケアⅠ～Ⅲで学んだ知識と実施手順をもとに、養成課程カリキュラムに規定された回数を演習する。医療的ケアが必要な利用者に、安全で確実なケアが実施できるよう小グループで繰り返し演習をおこない、技術の確認をする。				
授業の目標				
①喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ内）を手順通りに実施できるようにする。 ②吸引を受けている利用者の状態に注意し、異常を早期発見できるようにする。 ③経管栄養（胃ろう・経鼻経管）を手順通りに実施できるようにする。 ④経管栄養を受けている利用者の状態に注意し、異常を早期発見できるようにする。 ⑤医療的ケア実施後の記録と報告を適切に実施できるようにする。 ⑥緊急時の観察と救急蘇生法を実施できるようにする。				
授業の方法				
シュミレータを用いた少人数によるグループ演習であり、演習評価表にもとづき進めていく形式である。グループ編成・具体的な進め方等については、別途説明する。				
学習の成果（学習成果）				
①喀痰吸引および経管栄養を手順にそって実施することができる。 ②緊急時への対応を適切に実施することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、視聴覚教材による手技・手順等の確認 (第1～第15回 新井、 第2回～14回 和田)			
第2回目	演習1 口腔内吸引①②	経鼻経管栄養①②		
第3回目	演習2 口腔内吸引③④	経鼻経管栄養③④		
第4回目	演習3 口腔内吸引⑤(技術評価) 鼻腔内吸引①	経鼻経管栄養⑤(技術評価) 胃ろう経管栄養①		
第5回目	演習4 鼻腔内吸引②③	胃ろう経管栄養②③		
第6回目	演習5 鼻腔内吸引④⑤(技術評価)	胃ろう経管栄養④⑤(技術評価)		

第7回目	演習6 経鼻経管栄養①②	口腔内吸引①②
第8回目	演習7 経鼻経管栄養③④	口腔内吸引③④
第9回目	演習8 経鼻経管栄養⑤(技術評価) 胃ろう経管栄養①	口腔内吸引(技術評価)⑤ 鼻腔内吸引①
第10回目	演習9 胃ろう経管栄養②③	鼻腔内吸引②③
第11回目	演習10 胃ろう経管栄養④⑤(技術評価)	鼻腔内吸引④⑤(技術評価)
第12回目	演習11 気管カニューレ内吸引①	
第13回目	演習12 気管カニューレ内吸引②③	
第14回目	演習13 気管カニューレ内吸引④⑤(技術評価)	
第15回目	救急蘇生法	

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	既習学習を活かし、積極的に参加している。自主的にメモをしている。テキストや資料、技術評価表を活用し、イメージトレーニングにより技術習得に向けて努力している。
レポート	30%	各演習(5種類)の技術評価終了後に自己評価した「技術評価表」を提出。 S: できる・できないを明確にし、できるための対策を立てている。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	技術修得の確認評価は「技術評価表」にもとづき、各演習の5回目におこなう。 S: 手順通りに実施でき、1回で合格している。
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

新・介護福祉士養成講座15 第3版 「医療的ケア」 中央法規出版 (医療的ケアⅠ～Ⅲと同じ)

履修上の留意点・ルール

演習回数は決められているため、欠席することのないよう体調管理に努めること。演習時は身だしなみを整えること。